JIC インフォメーション第 154 号（1995 年 5 月 29 日第 3 種郵便物認可）　2009 年 1 月 10 日発行(1)

JIC インフォメーション

第 154 号 2009 年 1 月 10 日
年 6 回 1･2･4･6･9･11 月の 10 日発行
1 部 500 円

発行所：JIC 国際親善交流センター　発行責任者：伏田昌義
http://www.jic-web.co.jp
東京オフィス：〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F　TEL：03-3355-7294　jictokyo@jic-web.co.jp
大阪オフィス：〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-1-22 ﾌｪｱｽﾃｰｼﾞ大手前ﾋﾞﾙ 5F TEL：06-6944-2315　jicosaka@jic-web.co.jp

ロシア・旧ソ連　国際交流誌

С Новым Годом !!

2009

写真：牛がモチーフのチェーンレストラン「ムームー」@MOSCOW

♦本年もＪＩＣをよろしくお願いいたします♦

http://www.jic-web.co.jp

ＪＩＣスタッフより新年のごあいさつ
「あけましておめでとうございます」・・・・・2-16P
「キルギスの雪豹」プレゼントのお知らせ・・・・・16P
ＪＩＣ情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16P

JIC では、Ｊクラブ（JIC 友の会）会員を募集しています。
年 6 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

JICスタッフより新年のごあいさつ　2009

“あけましておめでとうございます”

皆さま、あけましておめでとうございます！С Новым Годом!! 2009 年も昨年同様、JIC をよろしくお願いいたします。

希望はかなえられる！

アメリカに端を発した金融危機と世界同時不況の波に洗われて、2009 年は重苦しい幕開けとなりました。このままではここ数年せっかく大きく広がりかけた日本・ロシアの観光交流が萎んでしまいかねません。こんな時こそ元気を出して、「ロシア旅行に出かける日本人客を増やすぞ！」、「訪日ロシア人観光客を増やすぞ！」、「ロシア語学習者を増やすぞ！」と頑張りたいもの。そこで、今回は元気の出る話を少々。

私事になりますが、私は兵庫県の丹波市に居を構えつつ、仕事は東京、大阪でという変則的な生活を続けています。ほとんど平日は家にいないとはいえ、丹波の田舎で暮らしていると自治会役員なども数年に一度は回ってきて、2 年前から「人権推進委員」というのをやっています。年に一度自治会内で人権学習会を行なうのが主な役割ですが、昨年 8 月に珍しい人を講師に呼んで講演会を開きました。講師は、私の元上司で、この JIC をともに設立し、1980 年代末まで専務理事として JIC の国際交流活動を主導された吉田勝次さんにお願いしました。吉田さんは、80 年代の JIC のソ連関係・ペレストロイカ関連出版物のほとんどを企画し、翻訳や執筆活動に取り組み、日本国際問題研究協会から兵庫県立大学(姫路市)の教授(国際社会開発論)に転進されました。その吉田さんが重い腎臓癌を患い、右腎臓摘出手術をしたのが約 4 年前。当時、兵庫県癌センターで同様の病状の患者さんの余命が最長で 2 年 4 ヶ月ということで、手術後しばらくしてお会いした吉田さんは随分落ち込んでいました。経験したことのない者には想像もできないことですが、「自分がいつ死ぬかわからない」「もう数年あるいは数ヶ月しか生きられない」と宣告された時、人はどれほどの不安と絶望に苛まれるでしょう。しかし、吉田さんは諦めませんでした。「なんとか癌と闘う方法はないものか」と、不屈の闘志で癌という難病に闘いを挑んだのです。癌から生還し生き延びている患者さんの話を片っ端から聞き取り、漢方や温浴療法やビタミン C 摂取など様々な治療法を試し、「癌は生活習慣病の一種なのだから、生活習慣から根本的に変えないといけない」と玄米菜食の生活に切り替え、あれほどセッカチだった「仕事人間」が仕事を最小限に絞り込んで毎朝毎夕散歩をし、癌患者さんを集めて毎週太極拳教室を開くなど、きわめて元気に闘病生活を続けておられます。今では兵庫県の腎臓癌患者の術後生存記録を日々塗り替えながら、最長不倒記録を更新し続けています。

吉田夫妻とともに
（左：吉田さん、右：奥様　春子さん）

＜四国霊場八十八ヶ所巡＞

昨春 3 月に行なわれた吉田さんの定年退官記念講演会は、大学のゼミ生や友人だけでなく姫路市の癌患者さんも沢山集まり、患者さんによるコンサートあり、癌体験の交換あり、太極拳の模範演技ありの、型破りだけれども、とっても楽しい記念会になりました。今では、「癌と闘う」というよりは、「癌と共存しつつ生きる」といった方が正確だと思いますが、困難な病気にも決してくじけず、自らの生命力を精一杯燃焼させて生きるだけ生き抜こうという吉田さんの気持ちが周囲に波及するのでしょう、吉田さんの話を聞くと誰もがとても前向きで元気な気持ちになるのです。

「よし！おざなりな人権学習会をやるよりも、この元気すぎるほど元気な病人の話を聞かせて、『人間の生命力』というものを感じ考えてもらう方が、よほど為になる」と考えて、保守的な田舎ではやや冒険ではあったのですが、『癌患者の人権を考える』と題して吉田講演会を開催したわけです。しかし、結果は大好評でした。意外と癌や難病で悩んでいる方も多く、学習会のあと思いもよらない人から声をかけていただくなど反響を呼びました。

吉田さんの話を聞いて思うのは、「人間、希望をもって頑張れば、希望は必ずかなえられる」という確信です。思えばわが JIC も、多くの困難を皆の力を合わせてくぐりぬけ、今日まで成長を続けてくることができました。人間は機械ではありません。感情を持ち、宗教心を持ち、文化や芸術、スポーツを愛し、自然を愛し、家族を愛し、友人と語らい、人生を楽しみたいのが人間です。同時に、仕事や趣味の世界で、何事か自分の存在(役割)を確かめたいのも人間の希望です。JIC という会社で、全てのスタッフが最大限生き生きと仕事を楽しめる条件を作るのが、私のこれからの目標です。

逆風はますます強く、前途はまだまだ困難ですが、しかし希望を高く持ち、互いに支えあってロシア旅行・ロシア語留学をはじめ様々な分野で日ロ交流の拡大に取り組んでいきたいと思います。

本年もよろしく、お願いいたします。

ジェーアイシー旅行センター㈱代表取締役
JIC 国際親善交流センター・副会長　伏田　昌義

＊吉田勝次さんの講演録（ワード A4 版 12 頁）、希望者は JIC 宛に「吉田講演録希望」とメールでお問合せください。

2009 年、平和を願う

新年あけましておめでとうございます。

2008 年に私の印象に残った事件といえば、グルジアにロシア軍が侵攻し一時グルジアと戦争状態になったことでしょう。どちらが先にちょっかいを出したのかという説についてはロシアという説・グルジアという説の両方ありますが、どちらが先に仕掛けたにせよ、戦争状態という事態に身近な人の身を案じるような気持ちになったのは、私ばかりではなかったのではないかと思います。

ロシア軍の侵攻が始まった翌日、私の担当でちょうどその日の 2、3 日後にソチからトビリシに航空機で移動し、トビリシ滞在予定のお客様がいらっしゃいました。とりあえずその日の状況をトビリシの旅行会社に尋ねたところ、担当者クリスティーナさんからのメールには「ロシア空軍により、グルジア全土の空港はすべて空爆されております。ゴリはひどい状態で、何が残っているかさえわかりません。トビリシは現在のところ静かです。でも明日何が起こるのか私にはわかりません。お客様については心配しないでください。お客様がトビリシに到着したら、連絡を取り車を手配してアゼルバイジャンに送ります。」というメールが届きました。私も顔見知りのクリスティーナさんが、この戦争に確実に巻き込まれているのだ・・・という恐怖と、その中でも自分の担当するお客様の安全を確保しようとするクリスティーナさんの姿勢に胸が痛くなりました。モスクワの旅行会社の担当者からは「ロシアからグルジア方面に行くすべての航空機は、運航を取りやめました」という連絡が入りました。当のお客様は結局トビリシ行きの航空機がフライトキャンセルのため、ソチからモスクワに引き返すことになりました。その後しばらくはロシア・グルジア間の往来はできなくなっています。旅行という事業が、いかに国と国の平和な関係の上に成り立っているかを、改めて思い知った事件でした。

＜大阪オフィスのみんなで＞

トビリシの旅行会社の担当者からは、11 月に「もう大丈夫。空港や町の修復は終わり、私たちは旅行客を受け入れる準備をしています。日本からもぜひツアーを作ってグルジアに来てください」というメールをいただきました。素晴らしい世界遺産をいくつも持つグルジアに、また日本からも旅行者をどんどん送ることができるようになるといいのですが。

2009 年がすべての人にとって平和で穏やかな 1 年であるよう、お祈りいたします。

大阪　小原　浩子（こはら　ひろこ）

引っ越しをしました！2009 年は運動の年に！

皆様明けましておめでとうございます！2009 年も JIC をよろしくお願いします。

ところで、みなさんは通勤・通学にどれくらい時間がかかりますか？私は引越しをする前までは、バスと電車を乗り継いで片道約 1 時間半の通勤時間をかけて出社していました。「普通それくらいかかるよ～」と言われてしまいそうですが、私にとって片道 1 時間半の通勤は、それはそれは大変なものでした。特にバスは、雨が降ると必ず遅れるので、前日の天気予報チェックは欠かせないものでした。そこで、アパートの契約更新を機に引越しを決意しました。

2008 年 6 月に通勤時間片道約 30 分のところに引越しをしました。とても気に入って決めた部屋です。白を基調とした部屋で、広めのベランダからは小さく（本当に小さ～くです。笑）東京タワーが見えます。台所やお風呂、トイレも清潔で、一瞬で一目惚れをして決めた部屋です。駅周辺には本当にいろいろなお店があります。商店街、24 時間スーパー、ラーメン屋さん、焼肉屋さん、カレー屋さん、バー、カフェ、美容院、銀行、郵便局、病院、クリーニング、接骨院…etc。家から徒歩 10 分圏内で、生活に必要な用事をほとんど済ませることができます。自分の家がとても気に入っているので、友達を家に招くようになりました。食事は自炊をして家で食べることが多くなり、たまに飲みに出かけるも近所のバーです。ゲームが好きなので、休みの日はこの居心地の良い我が家で DS をして過ごすことが多くなりました。家とその周辺で過ごすことが多くなったからか、最近運動不足を自覚するようになりました。残念ながらスポーツジムは隣駅にしかないのですが、頑張って通おうと思います。2009 年は運動をして、健康的な年にしたいと思います！

東京　鶴田　ゆり（つるた　ゆり）

通訳案内士試験の不可思議

明けましておめでとうございます！皆さんにとって2008年はどんな年でしたか？そして新年はどんな年にしようと考えていますか？昨年やりかけた事は2009年中に実るといいですね！

私事ですが、2008 年を通してやっていた事の結果が、今年の 1 月末にやっと出そうです。通訳案内士試験の合格発表の事です。皆さんは通訳案内士という資格についてご存知ですか？この国家資格を取得した人だけが報酬を受けて外国人観光客の案内という仕事に就くことが出来るガイドのライセンスです。そしてこの資格を持っているロシア語ガイドはかなり少数で、さくらの時期や紅葉の時期など、私達の部署にとってのいわゆる「繁忙期」には慢性的に不足しています。

＜プレミアム最高です＞

私の知り合いの中にはロシア語ぺらぺらの日本人や日本語達者なロシア人が一杯いますが、通訳案内士の試験に挑戦しようともしませんでした。「そんなに難しい試験なの？」と聞くとみんな口を揃えて「すごく難しい」と即答します。

しかし去年、私のロシア人の友達は予備校の 3 ヶ月集中講座に通って一発合格を決めました。彼は初めてロシア国籍通訳案内士になりました。「難しいけど不可能ではない」。彼の合格は他のロシア人の知り合いや友達をやる気にさせました。そして私も負けまいと、この試験に挑戦しようと決心しました。試験の概要はいたってシンプル。まずは筆記試験。科目は4つ：ロシア語（日露・露日の翻訳）；日本地理；日本史；一般常識。ロシア語試験の翻訳以外の項目はマークシート方式です。これら 4 科目の試験を休憩を挟みながら一日ぶっ通しでやります。そして全科目合格の場合、2 次試験（口頭試験）を受ける資格を得ます。2 次試験はロシア語で試験官の予測不可能な質問に答えなければなりません。この「面接」ともいえる 2 次試験が終われば、後は合格発表を待つのみです。国家試験にしては時間配合が非常に悪く、筆記は 8 月末、口頭は 12 月頭、結果発表はなんと翌年の 1 月 30 日です。私は半年をかけて勉強したのですが、運よく 1 次の筆記試験を通り、2 次の口頭も受けましたので 1 月 30 日が待ち遠しくて仕方ありません。

しかし、この試験を受けて不思議に思った事があります。通訳学部日本語科出身の私は日本語とロシア語には十分な自信があって、地理・歴史・一般常識だけを集中的に勉強したのですが、実際に試験を受けてみると、もっとも難しかった筆記科目はロシア語でした。観光関連の問題は皆無に等しく、何の為のロシア語試験だったのか、この試験をもって何の能力を調べようとしたのか未だに分かりません。下記の問題を日本語で出された場合、皆さんは解けますか？

＜問題：(　)に最も適切な語句を入れなさい。＞
友達が新しいマンションに引っ越すことに関する会話です。
友達：待ちに待ったマンションにやっと引っ越せる！立地はいま一つだけど、部屋はすごく綺麗で、なんと(　①　)はレンガで出来上がっているのよ！
私：え～？部屋内の壁はレンガで作られているの？
友達：違うのよ!マンションの外壁がレンガ造り。(　②　)にレンガが使われているの！

ここで私と友達は(　①　)と(　②　)の違いについて考えてみました。(　①　)はラテン語では本来「内」という意味。生理学では「体内臓器の構造」や「家畜の生理的特徴」を意味するものです。しかし建物の外壁の部分は決して(　②　)ではありません。外壁の部分は正面、ファサードと言います。(　②　)は建築とは何の関係もなく、動物の外見を指すために使われている言葉です。

・・・何の話ですか？この問題を 40 分かけて穴があくほど見つめてみましたが、意味がさっぱり分かりませんでした。(　)に入れる選択肢を印刷し忘れたのではないかと思い、周りの人のペーパーをひそかに見てみたのですが、やっぱり選択肢は載ってない・・・。結局この問題を放置したまま終了時間を迎えました。（皆さんに少しでも分かるように番号を打ちましたが、実際の問題には(　)だけで番号さえ入っていませんでした）。

因みに正解は①「インテリアー」（内装）と②「エクステリアー」（家畜の外形）でした。ロシア人ですら問題の意味を理解できない、恐るべき試験です。このような問題をこれからも出されると、やる気や知識のある人でもきっと萎えてしまいます。この文章が万が一問題作成担当者の目に触れる事があるならば、その人にお願いがあります。今後はもう少し意味（そして意義）のある問題を作って欲しいです！

東京　モロゾフ・デニス

2009 年にはどんなものを見られるでしょうか

明けましておめでとうございます。

毎年この原稿を編集部に提出する際に、同時に用意しなくてはいけない写真を見つけるのに一苦労しています。海外調査に同行させていただく際には、近頃では 1 回の出張で CD-R 1 枚に収まらないくらいの写真を撮って帰ってきているにもかかわらず、撮っているのは資料としての写真ばかりで、その中に自分が写っているようなものは多くて 2 枚といったところです。

友人がウェブ上に上げてくれたアルバムの中から探すのが常になっていますが、たいていどの写真も酒席の写真ば

かりです。その他は、後ろ向きやわりと遠くにいるものが多く、この場の要件を満たしません。顔がわかる程度に写っている写真ではだいたい手に何らかの酒を持っています。「江ノ島の写真」でも「花火大会の写真」でもその点は変わりありません。

そんな中、今回は旅行らしい写真を見つけました。9 月に初島に行ったときの写真です。2008 年は夏の間忙しく、秋分の日のこの日初めて、足先だけとは言え、海水浴に“ありつくことができた”そんなうれしい瞬間でした。砂地からはかなり離れた場所まで岩場を行って、ようやく海水に足をつけ、覗き込んだエリアはわずか3-40 センチ四方の澄んだ水の中に小さなエビ、カニ、貝、そして魚も一度に観察できる絶好のポイントでした。また初島では、この“海水浴”と同じ日に、トンビとカラスが付き合い始めの初々しい中学生のように少しだけ距離を置きつつも並んで歩く(！)後ろ姿も目にすることができました。一同釘付けの情景でしたが、夢中で観察していて、誰も写真に収めなかったのがちょっと残念です。

＜ちょっと遅めの夏です＞

新しい年に、心に焼きつく「ちょっと得した気分」になれる情景に一度ならず出会えるよう、祈りをこめて新年のご挨拶を終えさせていただきます。

東京　曽根　直子(そね　なおこ)

ゆとり

どこかのシールビザを貼られることでもなく、出入国スタンプを押されることでもない用途でパスポートの白いところが埋められた。最後のページに大きめのハンコ「日本国自動化ゲート利用希望者登録済」。日本の出入国管理が混雑している時に「あそこのゲートは空いているんだよな」と前から気になっていた。昨年、成田空港第 1 ターミナル南ウイングから出国する機会があり、受付窓口も開いている時間だったので試しに登録してみることにした。

＜日本一。天保山山頂＞

仕事の隙間を無理矢理にこじ開けて取った休みを目一杯ぎりぎりまで使って旅行しようと思うと、どうしても「成田空港帰着 7:20、9:30 出勤」のようなぎちぎちのスケジュールになってくる。飛行機を降りてから駅のホームまで走るのは当然だ。この時、日本入国の長い行列にひっかかるとアウトになってしまうため、いつも空いている自動化ゲートの存在はありがたい。残念なのは、ヨーロッパのシェンゲン協定加盟国間の移動のように出入国スタンプが押されないこと。パスポートは時間軸の長い日記のようなもので、日付と地名を見ればいつどこに行ったのかがわかる、旅行の良い記録メモだった。「有人」自動化ゲートであればスタンプを押してもらえるのだが、急いでいればスタンプ無しは仕方ない。1 分でも惜しんで階段を駆け降り、成田税関へ向かう。

旅も含めて、そろそろゆったりとした生き方を送らなければと思うのだが、やはり今年も空港ターミナルを走ってしまうんだろう。

東京　金井　義彦(かない　よしひこ)

結局地図が好きなだけかも？

読者の皆様、初めまして。新入社員の岡本と申します。

ロシアについては、その広さや、大きさが気に入っています。もちろんそれは言葉通り、まず地理空間的にデッカイところが好きだという意味です。あまりにも広大な領域に、とんでもなく多様な文化、人々、地形、気候(そういうものをまとめて地誌と言ったりします)、世界でも超一流の芸術、宇宙開発技術まで、何もかも詰め込まれていて、それが日本のすぐ隣にあるのに、何となーく秘密のもやがかかっていて、いまいちはっきり見えない、ロシアのそんなところにワクワクします。憧れます。

告白しますと、仕事中たまに手配地域を調べるふりをしながら、こっそり地図上のバーチャル旅行をしています。最近のインターネット地図の進化の強烈さときたら、すでに見せちゃいけないモノまでばっちり公開してしまっている気すらしますが、とにかく地表面の情報を収集する上では、ほとんど究極のツールになろうとしていて、たまらないオモチャなんです。

そこでひとつの懸念が生まれます。ロシアのように、この種の情報を隠そう隠そうと長年がんばってきた地域に、圧倒的な無修正の波が及ぶということは、それだけでもう旅行の動機が一部削がれてしまうということもありうるなぁ、と。

話は飛びますが、以前ヴォルゴグラードに行ったときのこと、ここはかつてスターリングラードという名前だった頃に、第二次大戦の激戦地となり、交戦した当時のソ連とドイツ双方に大変な犠牲を出した都市です。戦いにはソ連が勝ったので、戦後その勝利を記念し、また死者を悼み、そして恒久の平和を祈念する公園がロシア(ソ連)によって作られました。勝ったとは言っても、辛うじて負けなかったというのが実態です。だからこの公園は、それはもう悲痛な雰囲気に満ちた巨大なモニュメント群で全体が形成されていて、公園の奥へと足を進めるごとに、自然と気持ちが引き締まり、胸がざわざわしてくる、そんなところです。その順路の終着点の付近

に、円筒形のホールがあります。無名戦士の墓です。入ると、永遠の火を灯したたいまつの彫刻を守るように直立不動の兵士が立っていて、荘厳な雰囲気の中に BGM が流れていました。低音の男性合唱にアレンジされていますが、よく聴いてみるとそれはシューマンのトロイメライのメロディーです。この演出はまさに天才的でした。ずっと苦しんでいた魂が、すっと鎮まっていくような、荒っぽい現実世界と美しい安楽世界の境目みたいになっているのです。そして何よりも、その効果の一番かなめの部分に、よりによって敵国ドイツの作曲家の曲をさらりと使ってしまうところにシビレました。その心意気に、ロシアはやっぱり広い、大きいと全身で思い知ったわけです。

インターネット地図をはじめ、情報技術の進歩によって世界の地理空間的広さ、大きさは感覚的に縮められています。でも、旅に出てこそ触れられる精神的価値の広さ、大きさが、これらによって本質的に脅かされることはまだないでしょう（当分は。Google はいつかやりかねません…）。この手の技術は、今のうちに道具として使いこなしてどんどん業務に生かしたいところですが、いつまで味方と呼べることやら。もし将来、人々の「旅行」スタイルが一変することになっても、自分の居場所はもっていたいものです。できれば、日本とロシアの間に。

大阪　岡本　健裕（おかもと　たけひろ）

あけましておめでとうございます！

2009 年モスクワ事務所は早くも 4 年目を迎えることになります。これまではモスクワ事務所はパートナーの会社の部屋を間借りしていたのですが、2 月からは同じ敷地内ですが引っ越しをして JIC だけの部屋になりました。中庭のようなところの離れに建っているので、建物に入ってからは少し分かりにくいのですが、モスクワのセンター（クレムリンからも徒歩 20 分くらいです！）に位置していますので、一度是非遊びに来てください！

さてさて、昨年のニュースと言えば、3 月モスクワ音楽劇場の芸術監督に元ボリショイバレエ団のプリンシパル、セルゲイ・フィーリン氏が就任したことです。2007 年の来日公演では JIC もお手伝いしたのですが、日本では通称ダンチェンコと呼ばれるこの劇場、13年間芸術監督を務めたブリャンツェフ氏が事件に巻き込まれ行方不明になったり、2回も火災にあったりとこの数年の間不運続きでした。バレエ団も従来のスターはまだ活躍しているものの、下から押し上げてくる若手の成長があまりありませんでした。しかし、今回新しくフィーリン氏が芸術監督になったことで、バレエ団も大きく変わろうとしています。フィーリン氏は元プリンシパルとはいえ、2008 年の 12 月もボリショイ劇場と一緒に来日しているまだまだ現役で踊れるダンサー。もちろん、芸術監督としては若手です。そんな彼はバレエ団の運営に本当に意欲的に取り組んでいて、レパートリーやダンサーのスカウト、育成に力を入れています。今シーズンはすでに2人の大型新人を獲得しました。予定されている 2010 年 4 月の日本公演が今から楽しみです。日本でもとても人気のあるダンサーなので、次の日本公演では本人もなんとか出演してくれないかなあと思っています。

これまで右肩上がりだったロシア経済にも、去年とうとう危機がやってきました。芸術分野には経済の影響が出やすいですが、そんな逆風に負けない熱い、元気なバレエ団から 2009 年は目が離せません！

モスクワ　山川　詩保子（やまかわ　しほこ）

家族 4 人になりました

あけましておめでとうございます。

一昨年の 3 月 16 日に授かった、長男・広宣（ひろのぶ）に続き、昨年 10 月 20 日に、次男・正明（まさあき）が誕生しました。上の子同様、誰に似たのか、食欲もすこぶる旺盛で、日々みるみる大きくなり、かつ丸々となっています。さて、わずか1歳7か月という、分別もつきようもない、言葉もろくにわからない歳で、兄となった長男・広宣のことです。これまで周囲の関心を独り占めしていた彼にとって、弟の誕生という、環境の変化を果たして受け止められるのか、と心配していましたが、意外にも、いじめたりせず、「まーちゃん」と呼びかけては、顔をなでたり、チューしたりしています。弟の存在が嬉しいようです。弟が泣けば、「まーちゃん、パイパイ」と言って妻の手を引っ張ってみたり、「まーちゃん、まーちゃん」と言って、弟のおむつを持って、僕の所にとことこと、届けてくれたりしています。

環境や社会の中で、自分の立場や役割、期待されることを悟り、それに合わせて、自分を変えようとする能力は、人間が生れついて持っているもののような気がします。私たちジェーアイシー旅行センターも、ロシア・旧ソ連地域を専門に扱う旅行社として、気がつけば（おそらく図らずも）、同業

他社と比べてみて、最も大きな規模の会社になりました。私たちがこの社会において、果たさねばならないことは何か、期待されることは何かを悟り、それに合わせて私たちも成長していかなければならないと思う、今日この頃です。今年もよろしくお願いします。

東京　神保　泰興(じんぼ　やすおき)

夏の思い出

昨年(08 年)7 月、ドイツの友人とセルビアのベオグラードで 4 年ぶりの再会を果たしました。彼女はベオグラード大学で 1 年間ドイツ語を教えていて、6 月に任期を終えたところでした。私達は 2003 年ロシア・タタールスタン共和国のカザン大学留学中に出会いました。2004 年にお互いロシアから帰国後（私は日本へ、彼女はドイツへ）、連絡は取り合っていたものの約束ばかりで会うことはありませんでした。彼女は私より 5 歳年下ですが、私にとっては実の姉のような存在です。私達は今回一緒にバルカンの国々を旅することにしていました。ボスニア・ヘルツェゴビナとクロアチアはすでに数回訪れたことがあり、バルカン地方は大好きな場所でしたので、とても楽しみにしていました。

当初の旅の予定はベオグラードからマケドニアのスコピエ→ツルノゴーラ(モンテネグロ)→アルバニア→ギリシャ→トルコまで。実際にはマケドニア(Skopje・Ohrid)とアルバニア(Tirana・Kruja・Berat)を回りました。ベオグラードからスコピエまでは列車を利用しました。聞いていたとおり列車は予定

時刻より 4 時間遅れて到着しましたが、結果的に車中での出会いもあり、車窓からの風景も楽しめたので、旅人モードに気持ちを切り替えるには絶好の場となりました。ちなみにバスの方は、ほぼ定刻に目的地まで到着するそうです。スコピエではロシア留学時の友人の両親が出迎えてくれました。この友人はこの時まだロシアに留学中で不在だったのですが、彼のおかげ、プラス、生粋のバルカン人の両親の大きなハートに甘え、私達は彼の両親宅(大邸宅？！)で 1 週間近くも滞在したのです。そして、今では彼以上に彼の両親と彼のお兄さんと仲良くなったというわけです。マケドニアで気づいたことは、クロアチアやボスニア・ヘルツツェゴビナ同様に喫煙者がとても多いということです！カフェや公園などでタバコを吸っていないのは小さな子どもくらいでした(大げさではありません)。お世話になった友人の両親もお兄さんも 1 日に 3～4 箱吸っているそうです・・・。それから、マケドニアはマケドニア語ですが、単語はボスニア語・クロアチア語・セルビア語よりもロシア語と同様の言葉が多くあります。セルビア語もボスニア語もクロアチア語もマケドニアでは十分通じますが、やはりマケドニア語で話した方が喜ばれます。そんな訳で超短期間でしたが私たちもマケドニア語を出来るだけ習得するよう努力しました。マケドニアの人々は他のバルカン地方の人々同様に明るく陽気で、心はとても温かく、一度友達になると「なんでこんなにまでしてくれるの？」というくらいお世話してくれます。ちなみに滞在先の友人のお兄さんは私たちが滞在中、毎日仕事を早く終えて私たちと共に過ごしてくれました。旅に出る前の私のバルカンの人々のイメージは、暖かい抱擁と暖かいキスでしたが、今回は以前にも増してそれを実感し、今では“暖かい“という表現ではもの足りず、熱い抱擁と熱いキスが私の中でバルカンの人々のシンボルとなりました♪

そんなこんなで旅人としての自覚を忘れ、マケドニアで酔いしれていた私たちは、約1週間の滞在の後、次なる目的地へ向かうべく重い腰を上げ、泣く泣くマケドニアを後にしました。私たちはスコピエからバスに乗り、アルバニアの首都ティラナへ向かいました。アルバニアについては怖いイメージが少しあったのですが、実際に訪れてみると意外や意外！人々はとても明るくてフレンドリーでした。アルバニアはイタリアからの移民が多く、イタリア語も通じます。(現地の言葉はアルバニア語です、英語はほとんど通じません。)首都ティラナは、ここ 10 年でずいぶん町らしくなったそうです。マケドニアなどの旧ユーゴスラビアの国とくらべ、アルバニアではタバコはもちろん、夜のカフェやバーでさえアルコールを口にしている人を見ませんでした！ただ、夜の街は派手に着飾った若者たちで溢れかえり、とてつもなく賑やかです。至る所にあるオープンカフェやバーから響き渡る音楽と、通りの車のクラクションの音、人々の話し声、携帯電話の呼び出し音、鮮やかなネオン…。私が訪れた時期は夏だったせいか、昼間は(文字通り)焼け焦げそうな太陽と刺すような日差しを避け、人々は屋内にこもっているのか、通りをぶらつく人はほとんどなかったのもあり、夜になるとこんなにたくさんどこから湧いて出てきたのか？！と思ってしまうほど大勢の人が通りで、カフェで、バーで活き活きと輝いていました。アルバニアで一つ気をつけた方がよいと思うことは、なるべく人に道を尋ねないということです。現地の人でも大して道を知らず、バスの乗り場もどこかほとんど知りません、たまに知っているのかと思えばすぐに車でいくらだけどどうする？と始まります(かなりぼったくります)。ちなみに普通のお店でも観光客とみると普通にぼったくります。でも基本的にアルバニアの人はとても人懐っこくて穏やかな人々です。そしてあえて言うなら、若い男性はみな美しく、シャイです。アルバ

ニアでも長居してしまった為、モンテネグロ、ギリシャ、トルコまでいく時間が足りず、ベオグラードに私たちを待っていた友人たちがいたこともあり、後ろ髪を引かれる思いで帰ることにしました。出会った人たちとの別れをちょっとだけ悲しみ、そして再会を楽しみに、抱擁とキスの嵐の余韻に浸って私たちはベオグラードに戻りました。と思いきや…ベオグラードでも短期間で濃い日々が待っていました。そして今回はベオグラードから帰国途中に、ウィーンでも一年ぶりにスペインの友人と再会を果たすことができました。今回も言葉の重要性が身にしみた旅となりました。ボスニア語、クロアチア語、セルビア語はよく似ている（方言程度の違いで文法は同じ）と言われます。今回はその違いに気づくことができ自分の勉強の成果？を感じることができ大満足でした。 ちなみに今回初めて訪れたウィーンでクロアチア語・セルビア語・ボスニア語を耳にし、ドイツ語も英語も話せない為に私自身がこれらの言語で話さざるを得ない場面が何度かありました。クロアチア語・セルビア語・ボスニア語がオーストリアのウィーンでこんなに役立つとは全く思ってもいませんでしたので、とても驚きました。オーストリアには戦争の際に逃げてきた旧ユーゴスラビアの人たちがたくさん移り住んでいるそうです。ウィーンで訪れたカフェやレストランの店員はセルビア人、ブルガリア人などでした。

本当にあっという間に今回の旅は終わりました。世界は思っているより小さいなと思い始めています。離れていても確かにそこに愛する友人たちがいることを実感しました。たくさんの抱擁とキスは私を元気にしてくれたようです。最後に、2009 年が皆様にとって健康で実り多い年でありますよう心よりお祈りいたします。

東京　藤枝　康子（ふじえだ　やすこ）

Viva !!! 2009 (^3^)～♪

インフォメーション読者の皆様、明けましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願い致します。

ついに 2009 年がやって来ました(^3^)～♪もう 1 年経ったのか…と、少し悲しい気もしますが、やっぱり新しい年を迎えるのはワクワクするものですね。

＜モスクワ事務所の山川さんと♪＞

私が初めて海外旅行を経験してから、今年の 7 月で 10 年が経ちます。初めて飛行機に乗ったのもこの時でした。空飛ぶ乗り物と外国に対する恐怖心、それに反して高まる期待、興奮…。溢れ出す色々な感情を、某航空会社の非常にマズイ機内食で抑えながら向かった先はアメリカ、オレゴン州。州都・セーラムで 3 週間のホームステイを楽しみました。その時まで、生まれ育った狭い地元こそが世界の全てだった私にとって、アメリカはあまりに大きく、魅力的な国でした。バカみたいに広い道路、どこに行っても溢れるフライドポテト、明らかにＬサイズより大きいＬサイズ、舌が痺れるほど着色料が入っているお菓子類、ジャリジャリと砂糖の歯ごたえがある激甘ケーキ、お店の BGM ですぐに踊り出すホストファミリー…。アメリカの豪快さは本当に衝撃的だったなぁ…(-_-;)。たった 3 週間のアメリカ生活が、10 ヵ月間のロシア留学よりはっきりと記憶に残っている気がするのは、「初めて」の海外旅行で色々な「初めて」を体験し、濃厚で濃密な時間を過ごせたからではないでしょうか。

と言うわけで、皆様も強烈な「初めて」をロシア・旧ソ連地域で体験してみてはいかがでしょう…^^。JIC スタッフが真心込めてご旅行の手配をさせて頂きます◎少々強引な締め方ですが…今年も私らしくマイペースに頑張ります^^v

大阪　五十嵐　真夕（いがらし　まゆ）

2008 年 10 月 剣岳（登山日記より）

トロリーバスやケーブルカーを乗り継ぎ、到着した室堂には下界と変わらない人ごみがあった。室堂より立山に登り、軽い昼食を摂って歩き出す。大汝山を越え、真砂岳を経て別山に着いた。そこからの峻険とした荒々しい剱岳の姿がとても印象的だ。歩き始めてから約 6 時間。所々雪の積もった登山道を下降し、テント場－剣沢キャンプ場―に着いた。夏には登山者で大変な賑わいを見せるが、シーズン終了後はひっそりと静まりかえり、“貸切”とも言える状態だった。夕焼けに染まった剱岳を目前にテントを張り、背負ってきた 3 ℓの水を少しずつ沸かし夕食の支度をする。そこは標高 2500m、日没後は氷点下の世界に包まれる故、温かい食べ物は即エネルギーとなり身体を生き返らせる。夕食を終えテントの外に出ると、天の川が見える程満天の星が広がり、月の光は雪渓を金色に反射させ、地面に転がる大きな岩々は神秘的な姿に変わった。風の音と時折突風によって起こる落石、それ以外何も聞こえない、まるで宇宙にいるような錯覚に陥った。その時、なんとも奇妙な動物の泣き声を耳にした。ここはアルプス、氷河期の遺産と呼ばれている雷鳥が

生息しているのだ。雷鳥は天敵から身を守る為、雨や雷の時に活動すると言うが、思いがけない雷鳥の声は、私たちの剱岳山行を歓迎してくれているかのように闇の中で響いた。翌日は予報通りの快晴。テントを撤収し目の前に聳え立つ日本アルプスの名峰剱岳頂上を目指す。出発してから数時間、剱岳に登頂。山頂にて三等三角点を確認、360° に広がる日本アルプスの大パノラマ、自分自身の力で登り山頂を制した者だけしか味わう事のできない感動と喜びを胸に、今宵のテント場“雷鳥沢”へ下った。現在剱岳はエキスパートだけが入山を許される長い冬の眠りについている。「冬の剱岳とは、ハーケンが刺さらない程鉄のように硬く、エベレストを制した者ですら困難で太刀打ちできない事がある」と登山家は言う。剱岳―それは日本近代のアルピニズム発祥の地であり、日本中のクライマーに愛されてやまない岩と雪の殿堂である。

東京　白井　真理奈（しらい　まりーな）

毎日、一歩ずつ・・・

新年あけましておめでとうございます。サンクトペテルブルグでヘルプデスクを担当させていただいている奥田です。今年もよろしくお願い致します。

私は長年ピアノを続けており、その勉強でペテルブルグにやって来て、そのままこちらに住みついてしまいました。今も毎日の中心がピアノの練習という生活を送っています。

ペテルブルグでは毎年、ショスタコーヴィチの研究発表が学者間で行われています。ショスタコーヴィチは、ご存知の方も多いと思いますが、ソビエト時代の大作曲家で、私が大好きな作曲家でもあります。この学会は論文発表の合い間にショスタコーヴィチの曲を演奏する形式となっており、昨年は私も歌の伴奏という形で出演しました。以前にもこの学会では演奏したことがあり、雰囲気なども知っていて、それほど気負うことなくいったつもりが・・・。演奏そのものは大きなミスもなく終えたものの、ステージを降りた直後、汗がドッと噴き出し、心臓がバクバク！手の震えがしばらくの間、止まりませんでした。普通のコンサートでなく学会のため聴衆は専門家や学者ばかりで、それなりのプレッシャーがかかるということは最初から分かっていたのですが、身体のこの強烈なリアクションには自分でも驚いてしまいました。実はこの2年近くもの間、人前で演奏していなかったので、気付かないうちにかなり緊張していたようなのです。自分では精神面をコントロールしていたつもりが、しっかり身体に表れてしまったという訳です。本当に身体って正直ですね。ステージの上で緊張するのは当たり前、その緊張をどうコントロールし演奏に結びつけるかが重要であり、そのために場数を踏んで訓練しなくてはならない、というごく当たり前のことを改めて思い知らされました。また、本番で支えとなるのは毎日の練習による積み重ねだけだということも。そこで今年は（もとから数多くない）出演依頼があれば選り好みせず全て受け、今まで以上に練習する！その練習を目に見える形として残すため、以前から弾きたいと思っていた2つの大曲を仕上げる！を目標にしたいと思います。

＜ピアノの教え子たち＆ネコちゃんと＞

自分の内に何か1つ支えがあれば毎日を楽しく過ごせるのではないか、といつも感じています。それは人によってさまざま。お子さんの成長や家族の笑顔、仕事の充実度、また、趣味、スポーツ、習い事、旅行、語学の勉強などなど。

今年が皆さまにとって、大事なものをより大事にすることができる年となりますように、笑顔で毎日を過ごすことができますように、心からお祈り申し上げます。

サンクトペテルブルグ　奥田　美千代（おくだ　みちよ）

皆様、はじめまして

あけましておめでとうございます。昨年、6 月より入社致しました中林と申します。よろしくお願いたします。

11 月に 3 年ぶりにモスクワに行ってきました。日本でロシアの情報は、バブルだの、世界で最も物価の高い国だのということを耳にし、ここ最近でものすごく変わってしまったのだなあと思っていました。でも、実際行ってみると、確かに経済的発展は明らかでしたが、私の知っているロシアでした。以前と同じところで同じ人が働いていて、やはり同じように時間が流れていました。

私が初めてロシアを訪れたのは今から 10 年ほど前でした。その頃は、まだ、未知の国という印象がありました。そして近寄りがたい国いう感じでした。でもだからこそ、文化、芸術は手の届かないような神秘性を持って、高い水準を保たれているのではないかと思っていました。私はそのようなソビエト、ロシア芸術が大好きでした。

今、ロシアを訪れる日本人は数年前からは考えられないほど増えて、私がロシアに行ってきたといっても珍しがる人もいなくなり、身近な国になったなあと思うようになりました。ロシアも“普通の国”になって秘めたるものもなくなってしまったのではないかという小さな不安を抱きながら、モスクワを訪れましたが、そのような不安は必要ありませんでした。一週間あまりの滞在でし

＜久しぶりのモスクワ＞

たが、劇場、音楽院、美術館を訪れ、心地よく芸術に浸りながら、受け継がれるものはしっかり引き継がれている事を確信しました。これらの場所ではモスクワの人がいかに自分たちの文化に誇りを持ち、愛しているかを感じられました。そして、自国の文化に関心を持つ外国人の私にも好感をもって接してくれました。私は今回の旅行でまたロシアに魅かれました。一年に一度は行きたい国です。皆様もぜひ、ロシアの魅力に触れてみてください。

東京　中林　英子(なかばやし　えいこ)

初心に立ち返って・・・

あけましておめでとうございます。

私が初めてロシアを訪れたのは 2002 年、友人と 2 人でモスクワ・ペテルブルグ・ヘルシンキを旅した時でした。当時を思い出すと、ロシア語で会話するのもままならず、ずいぶん心細い思いがしたのを覚えています。それから早 6 年、JIC の一員となり、いつの間にやらロシアに関してはプロ(!?)と呼ばれるまでになっていた私ですが、極東地域へは未だ一度も足を踏み入れたことがありませんでした。

そんな私も、昨年ついに、新潟からたったの 2 時間、ハバロフスクへ行ってきました！2 年前に日本で一緒に仕事をしていた友人を訪ねるためです。

友人のワーリャは、日本からはるばるやってきた私のために、空港での感動的な再会の時からずっと私につきっきりで、しかもずっと自家用車でハバロフスクの街を案内してくれました。思えば今まで私は、ロシアといえばモスクワ・ペテルブルグばかりへ行っていたので、ワーリャは少しさみしい思いをしていたのかもしれません。私がハバロフスクへ来るのを心待ちにしてくれていたようでした。

さて、ハバロフスクでは数々の観光地はもちろんのこと、ロシアで大人気のアイスホッケーを観に行ったり、夜はクラブで朝 5 時まで踊ったり…。一人で旅行していたらとても体験できなかったようなこともたくさんできました！アイスホッケーは初めて観戦したのですが、動きがとても早くて、今どこにパックがあるのかすぐに見失ってしまいます。ハバロフスクのチームは「アムール」といいます。私も超満員の観客と一緒になって「Шайбу,Шайбу!!(シャーイブー、シャーイブー!!＝打て!!の意味)」と大声でアムールの応援をしたのですが、この日は残念ながらウラル山脈南部の都市、マグニトゴルスクのチームに 0-3 で負けてしまいました。帰国する日には好天に恵まれ、遊覧船の行き交うアムール川のほとりを散歩していると、川面がきらめき、小鳥がさえずり、まるで天国にいるのかと錯覚してしまうような素晴らしいひとときを過ごせました。今回のハバロフスク訪問をきっかけに、ロシアを初めて訪れたときのみずみずしい思いが甦りました。初心に立ち返って本年も頑張りたいと思います。

最後になりましたが、2009 年もみなさまにとって良い年でありますように！

東京　富樫　万里枝(とがし　まりえ)

チェスについて

あけましておめでとうございます！祝賀には相応しくない感想ですが、去年の後半は世界不況と激しい円高が、我々インバウンド部の拡大の流れに大きく影響するという思いもよらなかった事態になりました。

私事ですが、僕は麻雀をずっと前からやってみたくて、やっと昨年初体験できたのです。言うまでもなく、ルールさえ完全に把握していなかった僕はチャンスもなくあっけなく完敗、賭けていなくてよかった(^v^)！もともと日本ではあまり人気のないチェスが大好きで、時々大会のオンライン放送を見たり、オンラインゲームサイトで見えない相手と熱戦したりします。

チェスについてちょっとした面白い宣伝をしたいと思います。ゲームの偶然性がほとんどないチェスが、どれほど面白くて、いまだ最新のコンピューターにも計算されつくしていないことを示す良い比喩として、昔インドの国王が初めてチェスらしきゲームを紹介された時、あまりにも面白かったため、そのゲームの発明者にさりげなく「欲しいだけ報酬をやる」と約束してしまったのですが結局果たせなかった、という言い伝えがあります。(なぜなら、「小麦の穀粒を1からマスごとに倍々した数を置き、チェスボードの 64 マス全部に置き終わったときの粒の数を報酬として頂戴いたします」と、一見大した数字には思えない報酬を頼まれたのですが、実際は 2 を 64 回乗じた数がどれだけになるか・・・そんな報酬を与えられるはずもないのは当然なことですから。)

また「チェスは人生そのものに似ている」という言い方は、平凡な譬えですがまさしくその通りでしょう。F.A.D フィリドールという 18 世紀の有名なチェスプレイヤーが単純明快な攻撃によって手早く勝利するという弱い相手にしか通用しないゲームの流れを見直して、「ポーン(歩兵を表すコマの一種)はチェスの魂なり」という彼の名言が表現する、陣地的な新しい戦略の導入によってチェスそのものが著しく変化した歴史的な事実を思い出します。どうも JIC のインバウ

ンド部自体もなにか新しくてきめ細かい戦略を要求されているように思います。具体的には何でしょうか。今年のテーマになりそうな課題です。

大阪　ズビャーギン・フョードル

学生時代にタイムトリップ！！

あけましておめでとうございます。早いものでジェーアイシーに入社してから 1 年が経ちました。この 1 年は今までにないほどの猛スピードで過ぎて行きました。楽しい時ほど早く過ぎると言いますが、果たしてそうだったのでしょうか？

それはさておき、確かに嬉しいこともたくさんありました。一つは昨年 5 月に開催された「ロシアンフェスティバル」で、大学時代に所属していたサークル「ルムーク」の後輩達の活躍ぶりを目にしたことです。「ルムーク」（РУМУК）とはロシア民謡が好きな学生達の集まりで、その名前は、“Русский Музыкальный Кружок”から来ていますが、別の説では日本語の「ロシア民謡を歌う会（ろ[Ру]しあみ[М]んようをう[У]たうか[К]い）」から来ているとも言われています（？？）。

（というのはうそで、後者はこじつけです。）私がいた頃は、衣装は手作り、伴奏の楽器はキーボードとアコーディオンだけでしたが、当日の演奏はバラライカとドムラの伴奏の下、とても本格的でした。衣装、歌、伴奏と何から何まで格段にグレードアップしていました。しかし何よりも嬉しかったのは、ルムークがいまだに存続し、今の学生さん達の間でもロシア民謡が歌い継がれているということです。というのもこのサークル、大学三年の時に先輩、友人、後輩達と軽い気持ちで作ったもので、自分達が卒業した後はひょっとして消滅してしまうかな？とさえ思っていたからです。それがただ続いているだけでなく、こんなに立派になっているなんて！舞台を見ながら、胸が一杯になりました。

そしてもう一つ嬉しかったことは、この「ルムーク」の顧問を長年務めてくださっている、渡邉雅司先生と昨年 11 月に久しぶりに再会できたことです。先生はジェーアイシー主催のロシアセミナーで「人的交流を通して見た日本とロシア」というテーマで講演をしてくださいました。私も拝聴させて頂きましたが、まるで学生に戻って講義を受けているかのような感覚に陥りました。

この二つの出来事で、昨年は学生時代にタイムスリップし、今まで忘れていた初心を思い出すことができました。何か大きな力を貰ったようです。このような機会を頂いたことにとても感謝しています。

最後になりましたが、今年も皆様にとって嬉しいことがたくさんありますように。

東京　佐藤　早苗（さとう　さなえ）

今年も！？チャレンジ

皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年 1 年間もあっという間に過ぎた感じがします。新年を迎えると、毎年ですが何かをはじめよう！と思います。そう思いながら結局また 1 年が過ぎ、なにもしなかった 1 年・・・なんてことになっています。

JIC のスタッフはほとんどが留学経験者で、みなさんロシア語を流暢に話します。その中で僕は、いまだロシア語は「勉強中」です。ただ、ロシア・旅行・そして飛行機が好きなので縁があり、この仕事をさせてもらっています。今年こそはロシア語を話せるように。ちゃんと講座に行ったり、休みを利用して研修なんて行ってみたりしようと思っています。仕事上ロシア語を聞く機会は多いので、あ～なんとなくわかる！みたいな感じで今まで過ごしてきました。それでは何も進んでないので、今年こそは「ロシア語をちゃんと勉強した」と言える年にしたい。いやします。（笑）

2009 年は充実した 1 年になるように、いろんなことにチャレンジしていきたいと思っています。もちろん、皆様がロシアを快適に旅行していただけるよう、手配や相談など、今年も頑張らせて頂きたいと思っております。最後になりましたが、皆様にとって今年 1 年が良い年でありますように！

大阪　後藤　正明（ごとう　まさあき）

心機一転

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、キエフ、ヤルタ、モスクワ、ハバロフスクと様々なところに仕事で行かせてもらい、貴重な一年を過ごしました。特に昨年は、久しぶりに添乗員として、「ロシア雑貨めぐりの旅」に参加し、ロシア好きな皆さんと旅行する機会に恵まれました。約30名の雑貨＆ロシアファンの皆さんの引率でしたが、本当に私自身楽しめましたし、「旅行業」の楽しさを再認識したように思います。

＜ハバロフスクの幼稚園にて＞

一般的に「旅行業」と言っても、その中で行う職種によって、本当に仕事内容は全くと言っていいほど変わります。私は普段は主にグループの手配や営業を担当しており、どちらかというとグループ旅行の手配（観光内容やホテル・食事アレ

ンジなど）をして裏方の黒子として動き、「直接」お客さん自身とお話したり、会ったりすることはほとんどありません。そういう意味では今回は、いつも行っているお客さんの現地での観光内容・訪問内容・食事メニューアレンジを、あらためて添乗員として参加者と同様に体験する、という機会は貴重で、かつ非常に役立つものとなりました。今回の手配においては、前号の JIC インフォメーションのトップ記事に書かれているように、出発前のシャレにならない様々なトラブル（？笑）や、旅行中のトラブルなどが多々あり大変でした。しかし、おかげ（？）で達成感はいつもの倍以上でしたし、自分の組み立てた商品の反応を直にお客さんから知ることができ、また短期間でロシア好きの皆さんとも仲良くなれて、大変有意義な時間だったと思います。

来年 2010 年にはこの仕事を始めてとうとう 10 年目を迎えますが、この仕事に「お客さんの視点・考え方」を持つことがいかに大事か、ということをあらためて念頭において、今年一年、皆さんのお手伝いをさせてもらいたいと思います。

本年もよろしくお願いします。

大阪　永冨　文彦（ながとみ　ふみひこ）

タリンの舞踏会

みなさま、あけましておめでとうございます！

私は昨年 11 月にエストニアのタリンに行きました。エストニアにはロシア人がかなり多いのですが、エストニアにいるロシア人はロシアに住んでいなくてもロシアの文化発展に非常に興味を持っています。私の友人のマリーナ・テエが所長となっている「ルースキー・ドーム」（ロシアの家、ロシア会館）というエストニアの組織がロシアと関係するイベントをいろいろ主催していますので紹介したいと思います。

11 月 30 日、ルースキー・ドームはロシア舞踏会を行いました。タリンの中心の「黒頭人の家」に 100 人以上の人が集まりました。黒頭人の家とは、昔商人が集まってビジネスの交渉をした後に舞踏会などを行ったところです。そこで今年の舞踏会のテーマは「商人の舞踏会」でした。

舞踏会は 18 時頃から始まりました。はじめに、ロシアの民族衣装を着たアーティストがお客さんに挨拶をしながら、ウォッカとオレンジジュースを使ったカクテルが用意されたテーブルまで案内してくれました。よい舞踏会になるように乾杯するわけです。舞踏会は 3 部からなっていました。舞踏会に参加したお客さんはみんな踊り手だったわけではありません。ロシアの文化に興味を持っている人たちは、ロシア風に楽しく夕べを過ごすために舞踏会に行き、イーゴリ・スクリャール監督に踊りを教えてもらいながら簡単な動きで踊りました。ただ、一つだけルールがありました。あくまでも新しい、今まで会ったことのないパートナーと踊ることでした。舞踏会の過程ではパートナーがよく変わりましたので、お互いに知らない人でも楽しく友人のように陽気に踊りました。

1部はロシア民族舞踊でした。いちばん簡単なハラヴォードをはじめとして、色々なロシアの民族舞踊を踊りました。1部の終わりに、バレリーナのヴァレリヤ・イヴレワがチャイコフスキーのロシア・ダンスを踊りました。2 部は西ヨーロッパのボールルームダンスでした。踊りは、ワルツ、ポロネーズ、クラコヴャークなどでした。3 部はジプシーの踊りでした。

とても楽しい舞踏会でした。来年の秋にはタリンで次の舞踏会が行われます。テーマは「プーシキンの舞踏会」と決まっているようですので、みなさん是非タリンにいらして参加してはいかがでしょうか。

2009 年がよい年になりますよう、お祈りいたします!

モスクワ　トカチェンコ・ドミトリー

また脱皮しました

最近携帯の機種を変えたのですが、それにワンセグ機能がついていて、よく電車で録画したテレビを見ています。たいてい見るのは深夜番組。ところで「水曜どうでしょう」という番組をみなさんはご存じでしょうか。今、H さんが JIC でのパイオニアとなり、その「水曜どうでしょう」のひそかなブームを巻き起こしています。北海道育ちの私はその番組がはじまった 1996 年、高校 1 年生で、多感な時期を一緒に過ごしていた思い出の深夜番組でした。その番組は良く旅に出ます（普通の旅ではないですが）。旅行の楽しさを両親に教わり、「水曜どうでしょう」が旅の無限の可能性を教えてくれたといっても過言ではありません。

私が昨年旅に出た日数を数えたところ約 1 か月半。国内は北海道から沖縄まで旅し、列島を縦断しました。海外は JIC では定番渡航先モスクワ、今回はサッカーを観に行きました。そして人生の転機となったスリランカの旅。自分の度量の小ささを痛感し、改めて人間とか宗教なんてテーマに対してスパイシーな刺激をもらった私は、さらなる見聞を広めるため、勢いのままインドへ。スリランカではガイドがいましたが、インドについては海外渡航ではかなり久しぶりな一人旅。初めてのインドはさ

すがに陽気な気分をすぐに一蹴してくれました。人にだまされたり、人ごみに押しつぶされたり、いいこと悪いこと盛りだくさん。インドでは紅茶で有名なダージリンに行きました。そこで、あるチベット難民のおばあちゃんに会いました。難民センターで羊の毛を紡いで、セーターを作って生活をしています。私の片言英語は通じなかったので言葉は交わせませんでしたが、息が白くなるくらい寒い土地で握った温かい手から色んなことが伝わった気がします。今度はそのダージリンで知り合ったバングラデシュ人に会いにダッカに行きたいと思っています。

いつも誰かに助けられ支えられ命を繋いでいることを実感し、自分の中でまた何かが変わった・・・そんな気がする 27 歳の年でした。

東京　相澤　進之助（あいざわ　しんのすけ）

今年の抱負

あけましておめでとうございます。

昨年 3 月に入社しました竹村と申します。入社する前までは、ウラジオストクで 10 ヶ月間勉強していました。写真は、アムール湾にある人魚と一緒に撮ったものです。不安定な場所なので変なポーズになっていますが、冬は氷が張り、1 キロ先まで歩いていったり、たまに車が走ったりもしています。氷が割れて落ちてしまう人もいるようですので、春が近づいてくる頃には近寄らない方がいいかもしれません。

留学生活はといえば、酒をのんで二日酔いで次の日授業を遅刻したり、休んだりの話ばかりになってしまいますので、今年の抱負を書かせていただきます。

ロシア語が話せるようになりたくて、JIC のロシア語講座を受講していますが、いつも恐れているのが授業のときにいつも先生が聞いてくる、Что новость？（何か新しいことあった？）です。受講生の皆さんの多くが、毎回最近の出来事を上手に話すのですが、私は、無いと答えたり、一言で終わらせたりして、このままじゃいつまで経っても上手くならないと感じています。そこで、今年の抱負は「ロシア語の日記を書くこと」にしました。以前に何度か挑戦しましたが、なかなか続かずに終わってしまいました。どんなやり方かといえば、先ず日本語で日記を書き、そのあとロシア語に訳します。しかし、ある程度の量の日記を日本語で書いてロシア語に訳していくと、悩み苦しみ訳せない部分ができて、次第に日本語のページだけ増えていきロシア語のページ数と差が開き、処理しきれなく止めてしまうのです。そのような問題もあり、毎日続きそうな 3 行日記にします。

JIC インフォメーション読者の皆さんも無理のない抱負でよい年にしましょう。今年もよろしくおねがいいたします。

東京　竹村　貢（たけむら　みつぐ）

「暑い」

明けましておめでとうございます。昨年は、本当にみなさまにお世話になりました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

「あっ！」・・・動けない・・・ある日突然、本当に突然、ぎっくり腰をやってしまいました。最初の 2 日間はまともに体を起こすこともできませんでした。3 日目にやっと病院に行って、自分の名前を呼ばれても、先生のところにたどりにつく前にまた名前を呼ばれる。傘を杖代わりに歩いていると雨が降ってきた。傘は持っているけれど傘として使ったら、私の杖がなくなってしまう。楽をしようとタクシーに乗っても、車体の揺れで座っているほうがつらい。このままじゃいけない、と思って「ホットヨガ」を始めました。

＜社員旅行で＞

「ホットヨガ」、本当にすごいです。まず、スタジオに入ってびっくり。暑い。とにかく暑い。「暑い」というか「熱い」に近い。「無理をしないで 60%の力でやってください」、とのアドバイス。スタジオ内は私語禁止でストイックに自分自身と向き合う 60 分。“60%の力で”と思っていても、ふと全力でやってしまいそう。でも暑い。100%でやったらきっと倒れる。レッスン中に 1 リットルの水を飲むのが目安。1 リットルの水の減り方も早い。そのうち暑いことも気にならなくなって楽しくなって、60 分間はあっという間に終了。普段は額が汗ばむ程度の私が、腕からも首からも全身から玉のような汗。でも嫌なものではなくて、気持ちのいい汗。翌日の全身の筋肉痛も、“やっぱり効いてる”という実感が得られて、ちょっとうれしい。今はまだ初心者コースだけど、いつかは上級コースで思いっきり汗をかきたい。あとは、どこまで継続できるか。2009 年も 1 年間、無事に乗り切れるように体力つけます。

東京　柳沢　昭子（やなぎさわ　あきこ）

地道に山歩き

皆様、あけましておめでとうございます。今年も JIC をどうぞよろしくお願いいたします。

昨年はとうとう 45ℓのザックを使用する機会が訪れないまま 1 年が過ぎてしまいました。JIC 山岳部（実際に存在してい

るのかは不明です・・・）員としては大変申し訳ない活動ぶりでこれといった報告もないのですが、その代わり、最近は関西近郊の山を日帰りで地道に登っています。日本アルプスほどの雄大な景色には出会えませんが、それでも山の上からの景色や空気は格別なものがあります。

関西にも日本百名山に数えられる山がいくつかあるのですが、「大台ケ原山」をご存知でしょうか？私は関西にいながら今年やっと登ることができました。大台ケ原山は三重県と奈良県にまたがっており、標高は1,695mあります。何といっても世界有数の多雨地帯として有名で、雨に降られなかったら幸運とまで言われています。また、トウヒの立ち枯れの景色がとても印象的な場所です。アクセスは悪いものの、かなり山頂に近いところまで車で入ることができ、アップダウンも少ないので、登山装備でない方や家族連れの姿も見られました。久しぶりの山歩きですっかり体力が衰えていた私は、かなり息が上がってしまい、運動不足を思い知らされました。来年はぜひ、山岳部(!?)の先輩方と一緒にあちこち登りたいものです。

実は昨年、引っ越しをしたのですが、その家の近くにクライミングジムを発見！帰宅時にのぞくと毎日すごい人！子供から大人まで壁にへばりついている光景が可笑しいやら、うらやましいやら。今のところはのぞいているだけですが、いつかは挑戦してみたいと思っています。

そろそろ仕事の宣伝でも・・・と思うのですが、それもなんだか気分ではないので(すみません！)、今年の目標を。ずばり「インフォメーションを多くの方に読んでいただく！」そのためには面白い記事や情報が欠かせません。皆様からのご意見・ご感想も、より良い情報誌をつくるための力になります。ぜひお寄せ下さい！

大阪　小西　章子(こにし　あきこ)

○○を成し遂げる自分をイメージ

あけましておめでとうございます。

最近、『○○を成し遂げる自分をイメージすること』がいかに大事かを再認識しています。その時あまり四の五の考えず、見切り発車の重要性も自分の中でかなり再評価されています。本来終点である目標を起点にし、必要なことをある程度考え、その達成(＝目標に戻ってくること)が早ければ早いほどいい。たまにつまづくのもプロセスのひとつだから気にしない、と考えることはとっても重要じゃないかと思っています。

と言いつつ、自分は慎重派に属すると思います。目標を終点に見据え、完璧に計画することを起点にして行動に移すことも多々。いいことだと思っていたんですが、最近これが大嫌いです。『グズ』の原因になるからです。

たとえば…「あと 20 分で家を出ないとフットサルに遅れる。メシも喰ってない、歯も磨いていない、コンタクトも付けてない、おまけにまだ寝巻き。家ん中を動いているうちに、帰ってきたらゴミの片づけしよう、とか、明日の代表戦のビデオ予約しないと、とか、水とヨーグルトとスパゲッティがないから買い物リストをつくろう、とか余計なことを考え付く。メシ、歯磨き、着替え…あ～でも、せっかくいろいろ思い出したし…でも、片付けるトッカカリをつけとこう…でも、買い物リストないと覚えてらんない…つか、『でも』じゃぁねぇよっ！まず、フットサル！帰ってきたらどうせ思い出すし、思い出さなかったものはその程度のこと。ものすごく小さいことですが、これって『30 分後に家を出る自分をイメージすること』ができてないんです。考え方がきわめて曲線的。もしイメージできていたら、最小限のことしかやらなかったし、余計なことを考え付かなかったと思います。

CL 決勝を見に行く自分をイメージすること

では、イメージできていたパターンです。

『ロシア留学する自分をイメージすること』はできていました(結局 JIC の営業かっ!?ま、流して…)。英文科の先輩が就職決まった後「1 年ぐらい留学しとけば…」とぼんやり言ったのがきっかけで、「ロシア語やってるなら行ってみよ！」くらいの意気込みでした。この考え方は直線的かと。安直とも言いますが。そして、そのあとには『留学したいから○○を準備する』という考えしかなかったんです。それぐらいしか考えてないですね、おそらく。フットサルとロシア留学のくだりに割いているスペースの差でも考えている量の差は証明されている気がします。もしイメージできていなかったら、『どうしたら留学できるか』を完璧にすべく考え始め、ウネウネ考えたあげく、行かなかったかもしれません…。

今年も皆さんにとってよい年でありますように。

東京　林　寛之（はやし　ひろゆき）

カアチャン修行

新年おめでとうございます！昨年3月に次男を出産、またしても育児休暇中です。家庭科の素養ゼロの私が、無謀にもカアチャンになり3年がたちました。未だに家事は手ごわく、日々是修行です。

人生でなるべく触れずにすませたいと思っていた家事の世界。けれども人のためとなると話が違います。何でも味噌汁に入れて済ませていた私が、アレルギーっ子のために白身魚を選んでさばき、皆で食べる料理を工夫。「ホコリで死んだ奴はいない」という某マンガの科白に大いに共感していた私が、喘息予防にとこまめな掃除。そして、先日は…。これまた内気な子供の友達作りに、育児サークルというものに入りました。ある日フェルトが配られ、

「次回までに、動物型をフェルトにこのステッチでつけてきて」と。…スティッチ（ディズニー）？いや、ステッチ。その瞬間、私の記憶はなんと小学生まで飛んだのでした。私のステッチ体験は、その授業一回きり。以来、やろうかと思ったことすらありません。手芸は日常という雰囲気の周囲に事実を告げることが憚られた私は、そそくさと刺繍糸を買い、写真入りでやり方がわかるWebサイトを探して、なんとかやり遂げたのでした。ネット社会万歳…。

人生の中で故意に捨ててきたジグソーパズルのいくつかのピース。今になって汚れたピースを拾い上げ、私の中の欠けた部分に少しずつはめ込んでいる気がします。もちろんどのジャンルも汚れは色濃く、料理は大雑把、部屋はすぐ散らかり、縫い目はアヤシイ。ですが、放っておいたら一生やらなかっただろうことを、少しずつでもクリアした時はなかなかの充実感です。

それにしても、いろんな世界があるなあ、と世の中面白くなるばかり。数年後に不惑の年を迎える頃には、少しは文字通りの落ち着きが出るとよいのですが。しかしその前に、この4月からは職場復帰の予定でおります。今年はますます、落ち着きのない年となりそうです。

東京　百瀬　智佳子（ももせ　ちかこ）

あけましておめでとうございます

ウラジオストクで留学生のサポートをさせていただいております井上と申します。このような場に掲載させて頂いていいものかと思いつつ綴らせてもらいます。

92 年に初めてウラジオストクを訪問し、93 年に JIC から 10 ヶ月の語学留学に来ました。あれから幾星霜。自分ではまだ学生気分なのに留学生の皆さんにとっては、もう『おっさん』のようです…。そういえば最近、JIC 留学組で同時期にウラジオストクに滞在していた人が色々な所で活躍されていて、仕事で接点が増えてきたのも感慨深いです。あの大変な時期に留学に来てロシア関係の仕事なんかほとんど無いような状況を掻い潜り、今では日露の最前線でお仕事されているのは驚きです。やはりしつこいくらい踏ん張ると何とかなるのですね。今年留学される方もぜひ頑張って下さい。10 年先が勝負ですよ。

それにしても相変わらずここでの暮らしは激動です。停電になることはありませんが、毎日何かが起こります。ピストルが空から降ってきたり、事務所に水が流れ込んできたり。わけが分かりません。それでも今年はウラジオストクもついにブレイクか、というほど日本から訪れる人が増えました。私もずっと許容量を超えた仕事量でさばききれない位でした。と思っていたら、いつの間にか世界不況の影響がひたひたと迫ってきています。年末の 12 月 15 日には、2009 年からの中古車の輸入関税引き上げに反対する人々の大規模なデモが起こりました。2000 人くらい集まったようです。窓から見ているとクラクションを鳴らしながら走る車両の列が前を通り過ぎていきました。『たいしたこと無いな』と思っていたら、その後市内の幹線道路封鎖を行ってしまいました。こんなことは初めてでした。夜 10 時くらいまで封鎖は続き、巻き込まれた

市民は怒っていました。それでも 2012 年には APEC 首脳会議が開催される予定で、金角湾にかかる立派な橋も建設が進んでいるウラジオストクは、この先どうなるのか誰も予想できないけれども発展し続けるのでしょう。そんな退屈させてくれないウラジオストクで来年も頑張ります。でもウラジオストクだけでなく、ほかの都市にも頻繁に行きたいです。ウラジオストクの何がいいのかうまく説明できませんが、モスクワやペテルブルグではなく、ウラジオストクを選んで留学された方は、ウラジオストクを好きになって帰っていく人が多いです。モスクワの人もビビりながら来るところですが、ぜひ遊びに来てください！

ウラジオストク連絡員　井上　大樹（いのうえ　だいき）

モスクワ・ペテルブルグ　お得なホテル宿泊情報

～モスクワは週末の宿泊を、サンクトペテルブルグは10月以降のご訪問がお勧め～

アメリカから始まった金融危機の影響を受けてロシアの景気も減速しはじめていますが、昨年は好調なロシア経済のあおりを受けて、特にモスクワのホテル確保に苦労した1年でした。全く予約が取れないわけではないのですが、日本で言うビジネスホテルクラスのホテルが 1 泊 2～3 万円台になってしまいます。「コスモス」という典型的なツーリストクラスのホテルで 4，5 年くらい前であれば1泊 1 万 2，3 千円だったものが、現在では 2 万円を超えてしまっています。「ノボテル」「ホリデイ・イン」といった外資系の4星ホテルですと 1 泊 4、5 万円となかなか手が出ません。それでも少しだけ逃げ道があります。ビジネス中心の都市だけあって週末金曜日、

土曜日、日曜日の夜は平日の宿泊料金に比して 3 割程度安くなるホテルが多くあります。また 4 月末のゴールデンウイークの時期や 7 月中旬から 8 月下旬まではロシア側も休暇の時期となるため、ビジネス系のホテルは軒並み値段を下げてきます。日本から行くにも比較的休みがとりやすい時期ですよね。一方、サンクトペテルブルグはトヨタ、日産、GM などが郊外に進出しビジネス都市に変貌しつつありますが、ホテル事情はまだ観光目的が中心。5 月中旬から 6 月の白夜祭の時期を頂点にその前後は料金が下がります。10 月中旬にもなれば完全に観光のオフ期となり 6 月期の料金の半額やそれ以下になるホテルも出てきます。例えば格調ある 5 星ホテルの「アストリア」で 6，7万円台だったものが 3 万円台に、典型的なツーリストホテル「アジム」に至っては 2 万円前後だったものが 8 千円そこそこまで下がってきます。季節的にもマリインスキー劇場などでのバレエやオペラがシーズンインし、何より美術館、宮殿巡りも夏期に比べ観光客も少なく、ゆっくり味わうにはベストの季節といえます。少しだけ時期や宿泊する曜日を工夫することで意外にお得な旅行が楽しめます。今年はさらにこの間の円高が手伝って海外旅行をするには有利な年となりそうです。

＜ホテル「コスモス」＞

東京　杉浦　信也（すぎうら　しんや）

書籍プレゼントのお知らせ

前々号（152 号）で詳しくご紹介いたしましたチンギス・アイトマートフ著、阿部昇吉訳『キルギスの雪豹　永遠の花嫁』を読者の皆様にプレゼントしています。第 1 回、第 2 回の応募はすでに締め切らせて頂きました。現在第 3 回(最終回)の応募期間中となっています。ご希望の方は①お名前、②ご住所、③お電話番号、④メールアドレス（あれば）に書籍プレゼント希望の旨を書き添えて、お葉書、FAX、E-mail のいずれかにてご応募ください。E-mail の場合は、件名を「書籍プレゼント希望」としてください。

第 3 回締切：　1 月 30 日（金）　3 名様

＜応募先＞国際親善交流センター（JIC）　東京オフィス

〒160-0004　東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F

FAX：03-3355-7290　E-mail：jictokyo@jic-web.co.jp

当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

第 1 回当選者の方へは 11 月上旬に、第 2 回当選者の方へは 1 月上旬に書籍を発送させていただきました。
ご応募ありがとうございました！

ＪＩＣ：1~2月の予定

1月24日（土）JIC 東京・大阪　留学相談会
　13：00～16：00　各JICオフィスにて　要予約です。
1月26日（月）JIC 春の短期グループ研修申込締切！
1月30日（金）JIC 長期留学2009年4月生募集締切！
最新情報、追加情報はホームページでご紹介しています♪

~Jクラブ（JIC友の会）のご案内~

ＪＩＣインフォメーションを年6回、またＪＩＣのイベント案内をもれなくお届けします。ご希望の方には入会案内をお送りいたしますので、ご連絡ください。
国際親善交流センター